

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 社会の一つの評価となる就職決定率を90%以上確保する。	→ 1. 指標：就職決定率 評価基準：90%以上・・・評価A、85%以上・・・評価B、80%以上・・・評価C、80%未満・・・評価D（評価Bを目指す）	D			
2011年度以降に設定した「目標」	→				
	→				

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 1. 学生の成績評価を厳密に行った。成績評価に際して次のような原則を設けた。 ①シラバスで成績評価の基準を明示する。 ②各科目の成績評価を厳密に行い、各科目ともシラバスに達成目標を設定し、目標に到達していないものは不合格とする絶対評価を行う。 ③定期試験のみで成績評価をしない。課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。 ④GPA (Grade Point Average) 制度を導入する。
	小項目6.4.2
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
3年卒業の適用者数
ジョイント・ディグリーの授与者数
標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	就職決定率90%を確保する。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	2013年度に一期生が卒業する。その際に就職決定率90%確保できるよう、学部内にキャリア委員会を設定して支援する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○小項目6.4.1の説明は、中項目6.3に配置するのが適切です。中項目6.4でいう「教育成果」は、6.1の教育の目的やディプロマ・ポリシーに照らしてみた「成果」なので、卒業時やそれ以降に関するものです。現在まだ完成年次に達していませんから、6.4.1については必ずしも記述する必要はないかもしれません。

○前記の理由から「目標」「指標」については、完成年次までになお検討することが望まれます。

【学内委員】

○成績評価に関し、学部としてきっちりとした原則を定めて、運用されています。

○ここでは、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めているという視点も重要であり、例えば科目ごとの成績分布データに基づく成績評価基準の明確化、共有化等の検証も求められます。

○小項目6.4.1の現状説明(成績評価の説明)は本項目の説明内容ではなく、「6.3 教育方法」での説明になります。再考してください。

○大学基準協会は、下記のとおり基盤評価と達成度評価を示しています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.4.1の現状説明(成績評価の説明)は「6.3 教育方法」で説明する。

★○次年度報告に向けて、小項目6.4.1および6.4.2における目標・指標について、大学基準協会による基盤評価および達成度評価を参照し、検討し直す。